文部科学省学術フロンティア共同研究プロジェクト

「子育て環境と子どもに対する意識調査3 —祖母版—」

報　告　書

2003年7月

甲南大学人間科学研究所
学術フロンティア子育て研究会

文部科学省学術フロンティア共同研究プロジェクト
「子育て環境と子どもに対する意識調査３―祖母版―」報告書

目　次

はじめに……………………………………………………………… 1

調査の概要…………………………………………………………… 2

第１章　基礎統計
　1　回答者について……………………………………………… 3
　2　孫について…………………………………………………… 4
　3　孫の出産時の関わりについて……………………………… 6
　4　孫に対する気持ちや状況について………………………… 6
　5　祖母の子育て時について…………………………………… 8
　6　祖母の出産時について……………………………………… 8
　7　子育て時の気持ちや状況について………………………… 9
　8　祖母が育った環境について…………………………………10

第２章　祖母の孫への関わりと諸要因との関連について
　1　因子分析………………………………………………………12
　2　生活状況との関連について…………………………………13
　3　母親の養育態度との関連について…………………………15
　4　祖母の子育て時との関連について…………………………17
　5　祖母が育った環境との関連について………………………18

第３章　祖母が感じる子育ての違いについて…………………20

おわりに………………………………………………………………23

資　　料（調査質問紙）……………………………………………24

研究会メンバー一覧 ………………………………………………30

はじめに

殺伐とした事件が続き、世の中に重苦しい空気が漂っているように感じられます。その中で、「子育て」はどうあるべきなのかを考えさせられることも多く、子育ての難しさは増しているように思われます。

平成12年から続けて実施してきた「子育て環境と子どもに対する意識調査」では、母親、父親に続いて、祖母にあたる方を対象に調査を実施することにしました。これまでの調査結果から、子育てに祖母が大きく関わっていることが感じられたからです。子育てへの関わり、子育てに対する意識を中心に、祖母自身の子育て時や祖母が育った環境との関連を調査しました。

本報告書は、その調査から得られた基礎資料と分析結果をまとめたものです。これらを今後さらに詳しく検討し、育児支援について考えていきたいと思っております。

調査の実施にあたっては、各保育所、幼稚園並びに、産婦人科の先生方にご協力いただきました。深く感謝致します。また、この調査にご協力いただきました保護者の方、ご回答いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

平成15年7月

甲南大学人間科学研究所学術フロンティア子育て研究会代表
甲南大学名誉教授　松　尾　恒　子

調査の概要

1．調査の目的

本研究会では、子育て環境と子どもに対する意識を調査するため、母親を対象とした調査（2000)、父親を対象とした調査（2001）を続けて実施してきた。その結果、母親が大きな育児ストレスを抱え、不安を感じながら子育てをしている実態が浮かび上がり、また、父親は子育てに関わりたいという気持ちはあるものの、実際には子育てにあまり参加していない実状が浮かび上がった。さらに、祖母が母親を生活面や精神面で支えていることが推測された。

子育て環境として「家族」を捉える場合、父親や母親だけでなく、子育てや親を支え、孫と関わる存在としての祖父母の役割は大きいのではないかと考えられる。しかし、祖父母を対象とした調査は少なく、日常での役割や子育てに対する意識を尋ねたものはほとんどない。そこで、本調査では、祖母を対象として、子育てへの関わりの実状を把握し、孫や母親、父親に対する意識を知ることを目的として、調査を実施した。

2．調査の設計

(1) 調査対象

平成14年秋現在、神戸市東灘区およびその周辺に在住する乳幼児の孫を持つ祖母およびその家族（質問紙は、回答者を祖母と想定して作成した)

(2) 調査期間

平成14年9月から12月

(3) 調査方法

神戸市東灘区の公立保育所、幼稚園を中心に、保護者へ直接配布し、祖母にあたる人に手渡してもらうよう依頼した。回収は郵送で実施した。

(4) 回収状況

有効回収票　371票

有効回収率　18.6%

第１章　基礎統計

１．回答者について

回答者は、97.6%が祖母であったが、祖父が0.8%（３人）あった。その他は、曾祖母（１人）であった。（図1-1）

なお、本調査では、乳幼児期の孫を持つ祖母の、孫への関わりを知ることを目的としているため、この後の統計では、祖母の回答のみを対象とし、また孫の年令が７才以上であるものを除外した。

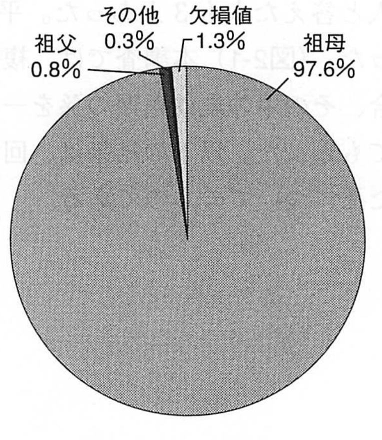

図1-1　回答者の続柄

祖母の年齢は、50代から60代が多く、最低年齢は41才、最高年齢は86才であり、平均年齢は61.3才であった。（図1-2）

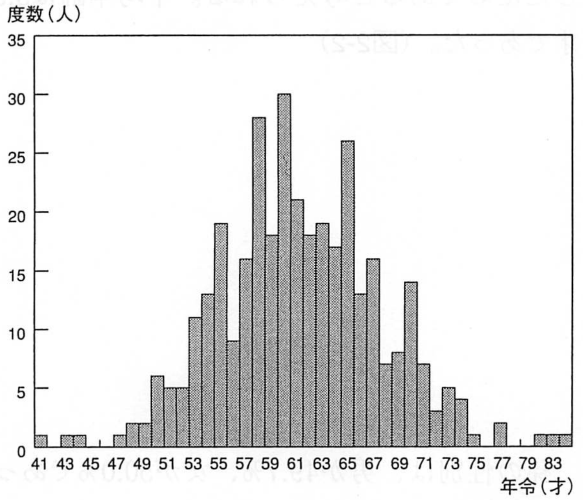

図1-2　回答者の年齢　平均61.3才

家族構成は、夫婦２人で暮らしている人が最も多く、30.7%であった。次いで孫を持たない子どもとの同居が15.1%であったが、これはまだ自立していない子どもがいる場合である。孫を持つ子どもとの同居は6.3%であったが、これは離婚などで片親となった子どもが孫を連れて同居している場合が多いと考えられる。子ども夫婦との同居は13.1%あり、娘夫婦との同居より息子夫婦との同居の方が多かった。また、親と同居している人は4.3%、４世代同居は2.0%であった。

欠損値が19.0%と高率になっているのは無記入が多かったためである。これは、同居者が誰もいないことを意味して無記入にした場合があるのではないかと考えられる。統計上では一人暮らしは9.1%にとどまっているが、実際にはもう少し多いのではないかと思われる。（図1-3）

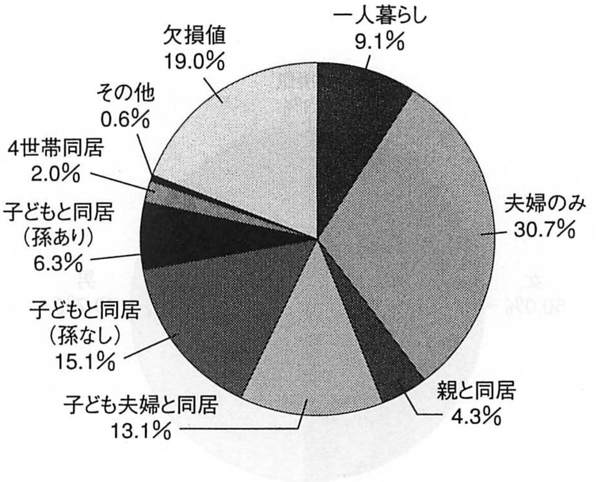

図1-3　回答者の家族構成

2．孫について

孫の人数は、２人と答えた人が最も多かったが、10人と答えた人も３人あった。平均は3.01人であった。（図2-1）本調査では、複数の孫がいる場合、その中の乳幼児期の孫を一人選んで回答してもらった。以下の結果は、回答の対象となった孫についてのものである。

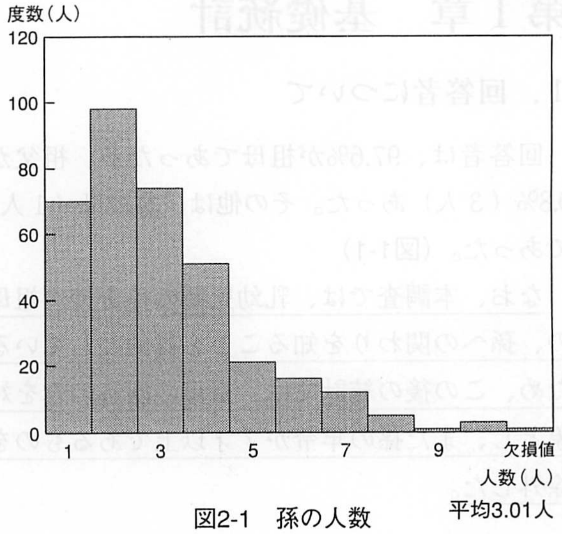

図2-1　孫の人数

孫の年齢は、４～６才が多くなっている。これは、幼稚園と保育所でアンケート用紙を配布したためであると考えられる。平均年齢は3.9才であった。（図2-2）

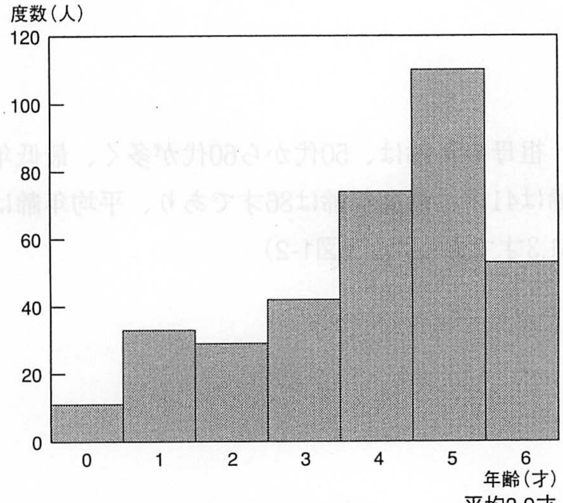

図2-2　孫の年齢

孫の性別は、男が49.7%、女が50.0%であった。（図2-3）

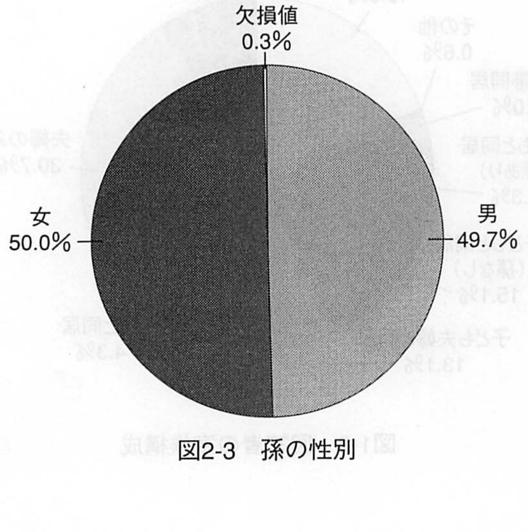

図2-3　孫の性別

孫が息子の子どもか娘の子どもかを尋ねた項目では、娘の子どもが71.3%に上っている。これは、調査用紙を親から祖母へ手渡してもらうように依頼したため、調査用紙を受け取った母親にとっては、実母の方が頼みやすかったためではないかと考えられる。（図2-4）

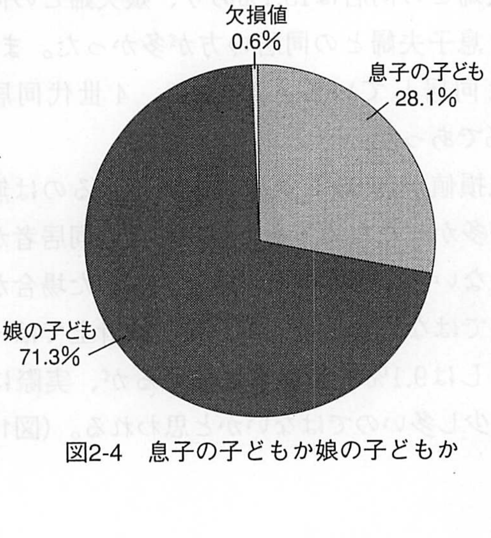

図2-4　息子の子どもか娘の子どもか

孫の住居は、祖母と同居が19.6%であり、30分以内のところが最も多く、47.4%であった。遠方に住んでいる場合が少ないのは、調査用紙を親に配布し、祖母へ手渡してもらうように依頼したためと考えられる。(図2-5)

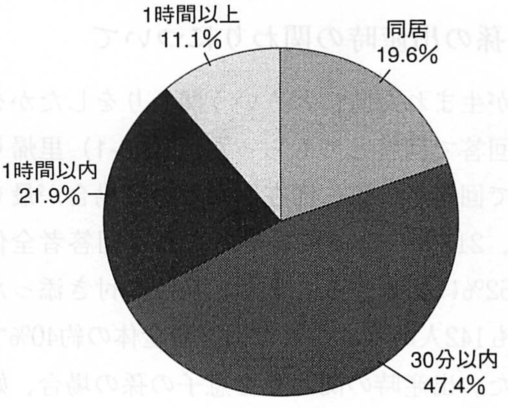

図2-5　孫の住居

孫の通所先は、約半数が保育所であった。欠損値には、まだ幼稚園や保育所に通っていない乳児が含まれている。(図2-6)

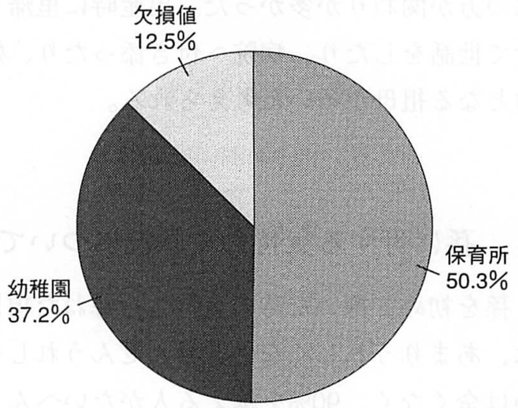

図2-6　孫の通所先

孫に会う頻度を尋ねた項目では、ほぼ毎日と回答した人が37.2%に上っている。孫と同居している人が19.6%であることを考えると、同居はしていないが毎日のように孫に会っている祖母が20%弱いると考えられる。週に2,3回会う人も23.3%おり、孫に会う頻度が高い祖母が多いと考えられる。(図2-7)

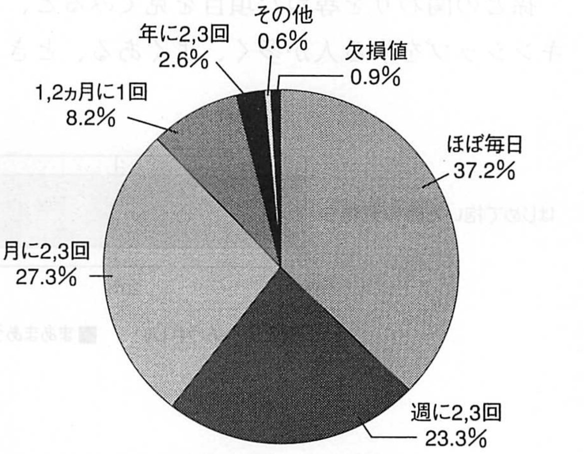

図2-7　孫に会う頻度

どんな時に孫に会うかを尋ねた項目では、子守りをする時が最も多く、25.3%であった。この中には、孫を預かる、食事の世話をするなどが含まれている。次に多かったのは、幼稚園や保育所への送迎をする時で、15.6%であった。15.3%あった行事がある時には、盆や正月などの季節の行事や運動会などの通所先の行事、また家族揃っての食事会などが含まれている。

遊ぶ時、会いたい時など、祖母の意向で会う場合は低率になっており、祖母が孫に会う時は、孫の世話を任される場合が多いと考えられる。(図2-8)

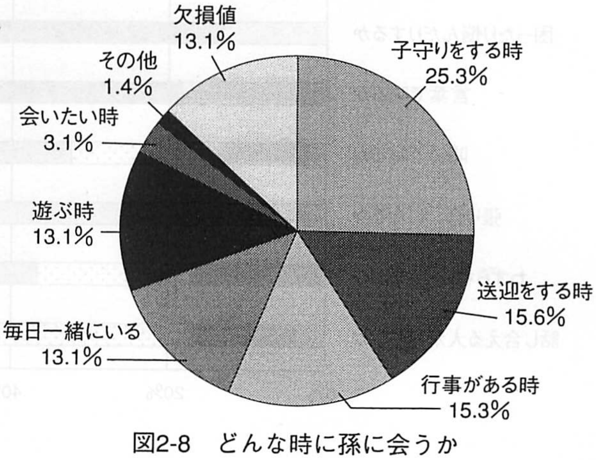

図2-8　どんな時に孫に会うか

3．孫の出産時の関わりについて

孫が生まれた時にどういう関わりをしたかを複数回答で回答してもらった。（図3-1）里帰りなどで回答者の家に滞在したという場合が最も多く、218人に上っている。これは回答者全体の約62%に相当する。また、病院に付き添った場合も142人あり、これは回答者全体の約40%であった。出産時の関わりを息子の孫の場合、娘の孫の場合で分けて見てみると、圧倒的に娘の孫の方が関わりが多かった。出産時に里帰りさせて世話をしたり、病院へ付き添ったり、娘の力となる祖母が多いと考えられる。

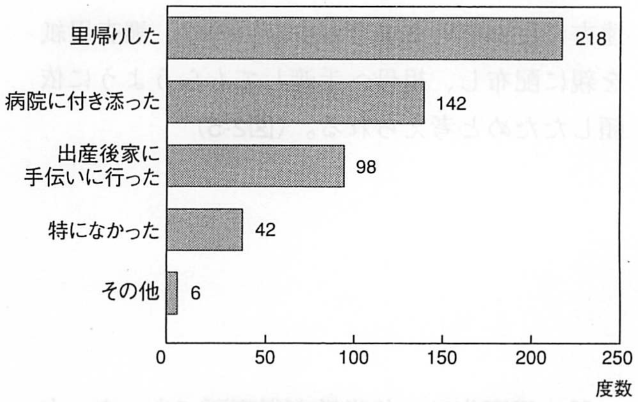

図3-1　孫の出産時の関わり（複数回答）

4．孫に対する気持ちや状況について

孫を初めて抱いた時の気持ちを尋ねた項目では、あまりうれしくない、ぜんぜんうれしくないは全くなく、90%を越える人がたいへんうれしいと回答していた。（図4-1-1）

孫との関わりを尋ねた項目を見てみると、スキンシップをする人が多く、よくある、ときどきあるを合わせて約97%に上っている。また、言葉で叱ることがよくある、ときどきあるを合わせると約70%あるのに対して、叩いて叱ることは、よくある、ときどきあるを合わせても約16%しかない。孫に対して言葉で注意することはあっても、優しい祖母の態度が伺える。

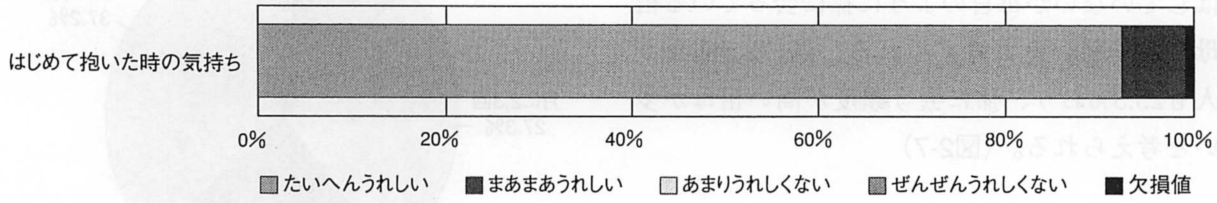

図4-1-1

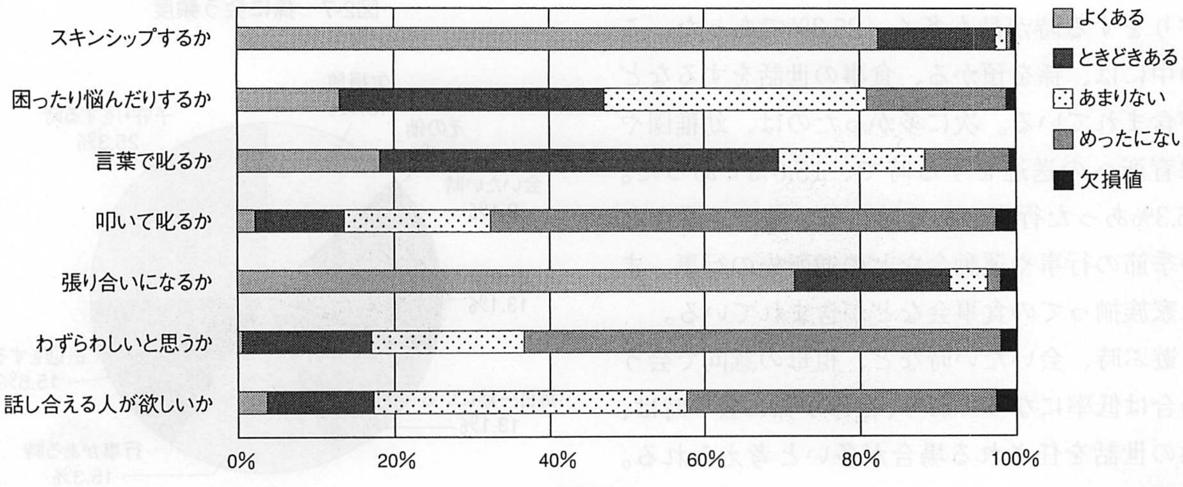

図4-1-2

出産の形態は、普通分娩が圧倒的に多かった。無痛分娩、帝王切開、吸引・かんし分娩は少数であった。(図6-2)

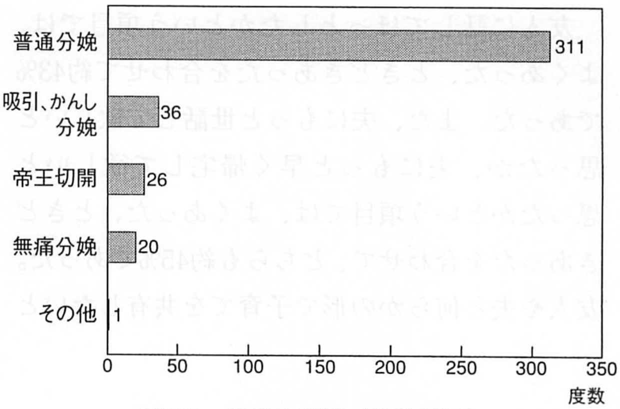

図6-2　出産の形態（複数回答）

出産時の父親の立ち会いは、83.8%がなかったと答えており、回答者が出産した頃はまだ父親の立ち会いは一般的ではなかったのではないかと考えられる。(図6-3)

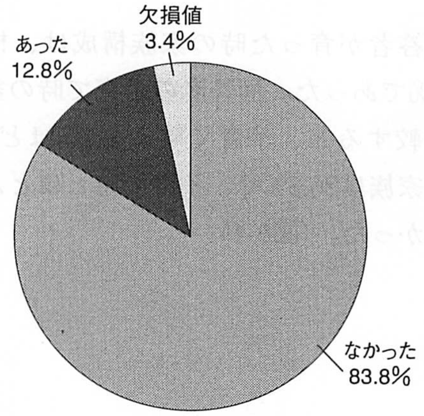

図6-3　父親の立ち会いがあったか

7．子育て時の気持ちや状況について

子育ての頃の気持ちや状況について尋ねた結果が図7-1である。子どものことで困ったり悩んだりしたかという項目では、よくあった、ときどきあったを合わせて約45%であり、また子どもが育てにくい子だと悩んだかという項目では、よくあった、ときどきあったを合わせて約25%であった。子どものことで悩むことが比較的少なかったという結果であるが、これは、子育てがすでに終わり、過去のこととなっているためではないかと考えられる。

遊ばせるところがなくて困ったかという項目では、よくあった、ときどきあったを合わせて約15%しかなく、子どもが過ごす環境には余り困っていなかったと思われる。

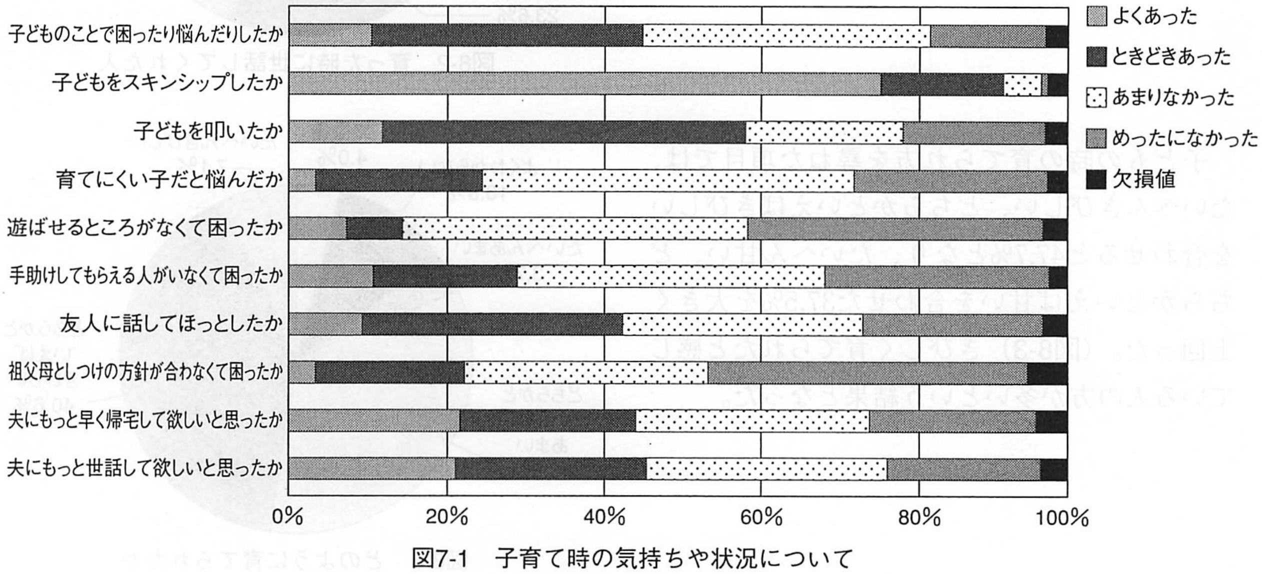

図7-1　子育て時の気持ちや状況について

友人に話してほっとしたかという項目では、よくあった、ときどきあったを合わせて約43%であった。また、夫にもっと世話して欲しいと思ったか、夫にもっと早く帰宅して欲しいと思ったかという項目では、よくあった、ときどきあったを合わせて、どちらも約45%であった。友人や夫と何らかの形で子育てを共有したいという気持ちはそれほど大きくなかったという結果であるが、現在よりも子育ては母親の仕事という意識が強かった社会背景を考えると、子育ての状況に満足していたというより、友人や夫と子育てを共有することを期待することがなかったのではないかと考えられる。

8．祖母が育った環境について

回答者が育った時の家族構成は、核家族が60.2%であった。回答者の子育て時の家族構成と比較すると、子育て時より7%ほど少ない。拡大家族は26.5%で、子育て時とほとんど変わらなかった。(図8-1)

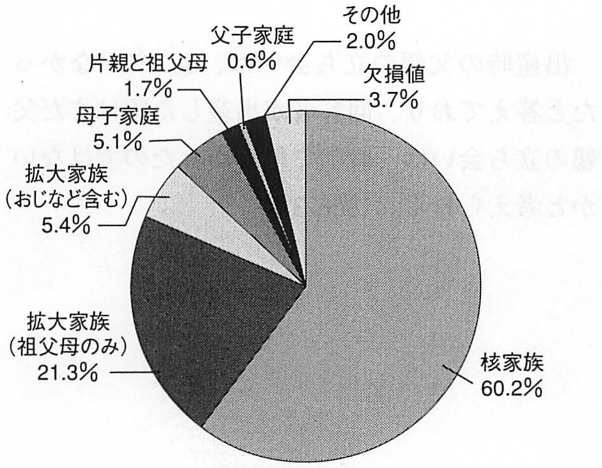

図8-1　育った時の家族構成

幼少期に世話してくれた人は、母親が最も多く43.2%であった。しかし、母親と祖母や叔母などの親以外の人が23.6%、両親以外の人（祖父母など）が14.8%あり、親以外の人が子育てに関わっていた場合が多いことが伺える。(図8-2)

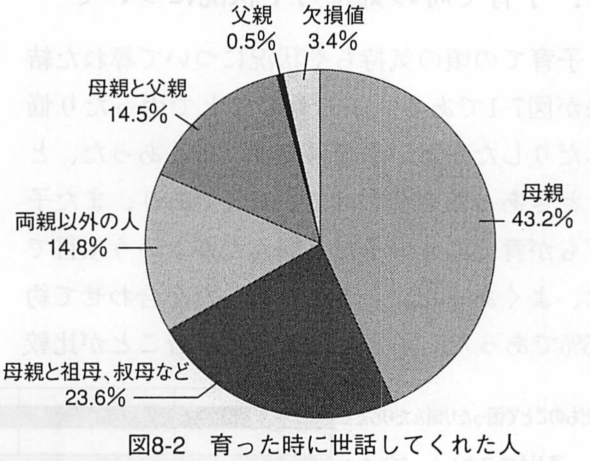

図8-2　育った時に世話してくれた人

子どもの時の育てられ方を尋ねた項目では、たいへんきびしい、どちらかといえばきびしいを合わせると47.7%となり、たいへん甘い、どちらかといえば甘いを合わせた37.5%を大きく上回った。(図8-3) きびしく育てられたと感じている人の方が多いという結果となった。

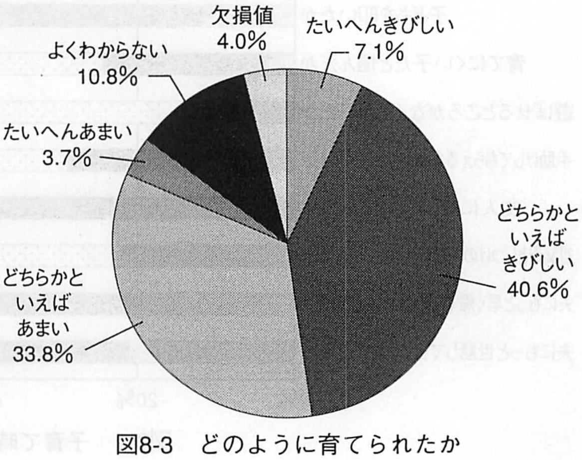

図8-3　どのように育てられたか

子どもの時叩かれたかを尋ねた項目では、よくあったは4.8%にとどまり、ときどきあったと合わせても25.3%であった。逆に、めったになかったが44.6%に上り、あまりなかったと合わせると71.6%であった。きびしく育てられたと感じていても、叩かれた経験は少なかったと考えられる。(図8-4)

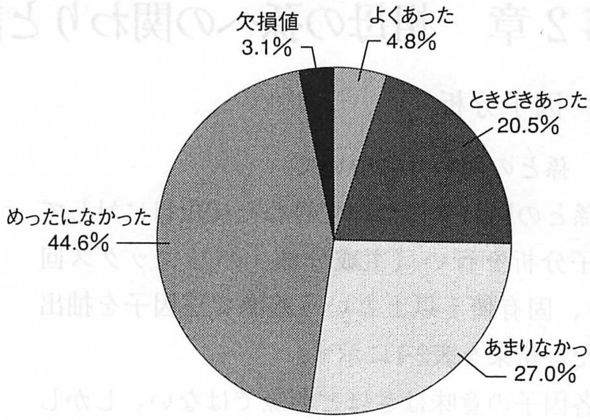

図8-4　叩かれたことがあるか

幼少者の世話をしたかという項目では、あったとなかったが共に45%前後で、ほぼ同数という結果であった。(図8-5)

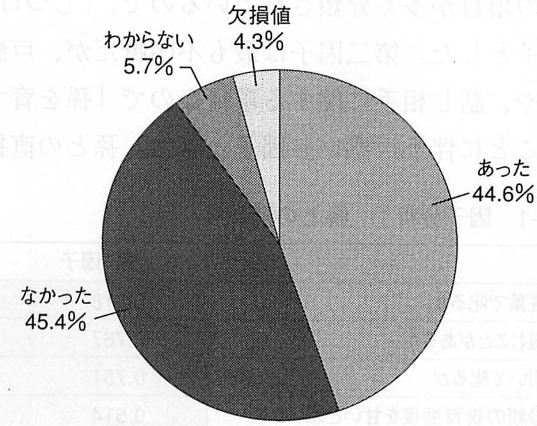

図8-5　幼少者の世話をしたか

親と離れた経験を尋ねた項目では、あったが21.3%であった。具体的に内容を記入した人の中では、戦争中の学童疎開を挙げた人が多かった。しかし、親と離れた経験がある人はあまり多くないという結果であった。(図8-6)

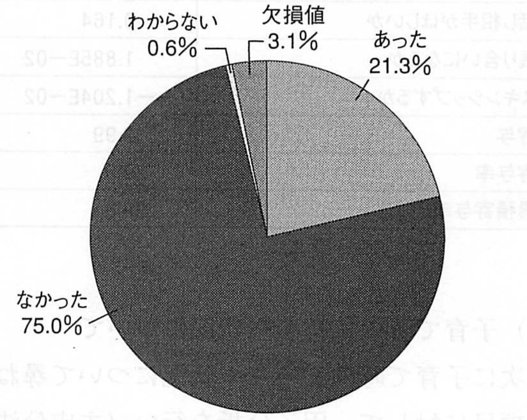

図8-6　親と離れたことがあるか

第２章　祖母の孫への関わりと諸要因との関連について

１．因子分析

(1) 孫との関わりについて

孫との関わりについて尋ねた10項目に対して因子分析を行い（主成分法・バリマックス回転）、固有値１以上という基準で三因子を抽出した。結果を表2-1に示す。

各因子の意味はさほど明瞭ではない。しかしあえて意味を検討してみると、第一因子には“叱る”ことや、子どもの「我」への対応についての項目が多く分類されているので、「しつけ」因子とした。第二因子は最も不明瞭だが、戸惑いや、話し相手に関する項目なので「孫を育てることに伴う戸惑い」因子とした。孫との直接の関係というよりは、孫の親の育て方について、少し距離を置いてみたときの思いを示す内容である。第三因子は比較的明瞭で、「ストレートでポジティブな関わり」に関わる項目である。

分析の際には、「よくある」を４点、「ときどきある」を３点、「あまりない」を２点、「めったにない」を１点として数量化し、解析を行った。さらに、10項目の得点を合計し、「孫関わり度得点」とした。これは、ポジティブな関わりとネガティブな関わり両方が含まれているが、ネガティブな関わりも孫に直接関わることであると考え、そのまま得点化した。

表2-1　因子分析１　孫との関わり

	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
言葉で叱るか	0.818	7.145E−03	5.079E−02	0.672
悩むことがあるか	0.767	0.174	−8.775E−02	0.628
叩いて叱るか	0.751	−2.979E−02	7.567E−03	0.565
母親の養育態度を甘いと感じるか	0.514	0.398	−3.192E−02	0.424
煩わしいと思うか	0.502	0.252	−0.431	0.502
母親の養育態度を厳しいと感じるか	−0.158	0.694	4.103E−02	0.508
母親の養育態度に戸惑いを感じるか	0.412	0.667	8.517E−02	0.622
話し相手がほしいか	0.164	0.640	−0.157	0.461
張り合いになるか	1.885E−02	−1.089E−03	0.785	0.617
スキンシップするか	−1.204E−02	−3.943E−04	0.684	0.468
寄与	2.99	1.27	1.20	
寄与率	29.9	12.7	12.0	
累積寄与率	29.9	42.6	54.6	

(2) 子育て時の気持ちや状況について

次に子育て時の気持ちや状況について尋ねた10項目に対して、因子分析を行い（主成分法・バリマックス回転）、固有値１以上という基準で三因子を抽出した。結果を表2-2に示す。

各因子の意味を検討すると、第一因子は子育てに対する夫や友人の助力についての項目である。従って「周囲（主に夫）の助力の希求」因子とした。第二因子は子育てについての悩み事そのものに焦点が合った項目であるので「子育てをめぐる悩み事」因子とした。第三因子は正反対のようであるが、どちらも子どもとの身体レベルでの接触という点で共通である。従って「子どもとの身体水準での関係」、ということになろう。少し目をひくのは「子どもを叩いたか」という項目が、第一因子・第二因子ともに少し高めの数値となっていることで、はっきりとではないが、関連があることを示唆している。

分析の際には、「よくあった」を４点、「ときどきあった」を３点、「あまりなかった」を２点、「めったになかった」を１点として数量化し、解析を行った。

表2-2　因子分析２　子育て時の気持ちや状況

	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
子育て・夫に世話してほしかったか	0.817	7.676E−02	−6.668E−02	0.678
子育て・夫に早く帰宅してほしかったか	0.778	−4.761E−03	−9.143E−02	0.613
子育て・手助けなくて困ったか	0.647	0.126	5.663E−02	0.438
子育て・友人に話してほっとしたか	0.515	0.226	8.507E−02	0.323
子育て・悩んだか	0.183	0.795	−0.158	0.691
子育て・我強くて困ったか	0.193	0.672	−0.223	0.538
子育て・祖父母と合わず困ったか	−6.397E−02	0.660	9.373E−02	0.449
子育て・遊ばせる場なくて困ったか	0.305	0.425	0.236	0.330
子育て・スキンシップしたか	0.164	5.826E−02	0.788	0.652
子育て・叩いたか	0.329	0.301	−0.562	0.515
寄与	2.844	1.349	1.034	
寄与率	28.4	13.5	10.3	
累積寄与率	28.4	41.9	52.3	

2．生活状況との関連について

図9-1は、祖母の年齢と孫との関わりとの関連を見たものである。祖母の年齢を10代ごとに分け、それぞれの年代の孫関わり度得点の平均値を求めた。その結果、40代23.0、50代24.0、60代23.9、70代25.4、80代27.0であった。年齢によって孫との関わりに有意な差があるかどうかについて一元配置分散分析を行ったが、有意な差は見られなかった。若い年代に孫との関わりが少ないのは、祖母が就労している場合もあるのではないかと思われる。

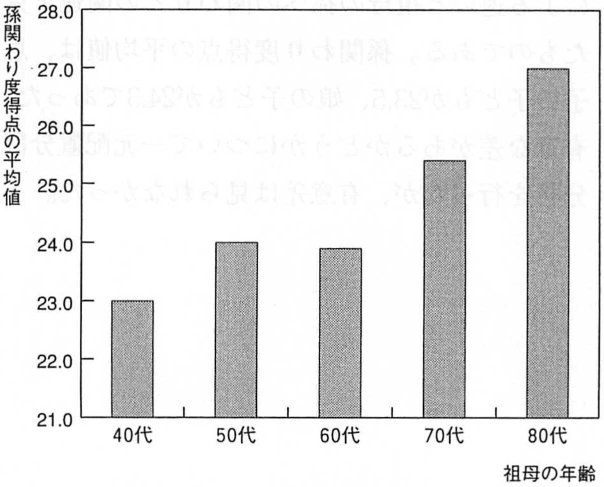

図9-1　祖母の年齢と孫との関わりとの関連

図9-2は、祖母の家族構成と孫との関わりとの関連を見たものである。それぞれの孫関わり度得点の平均値は、一人暮らし23.9、夫婦二人暮らし23.1、親と同居24.7、子ども夫婦と同居25.8、子どもと同居（孫がいない場合）23.2、子どもと同居（孫がいる場合）26.1、四世代同居27.4、その他24.0であった。祖母の家族構成によって孫との関わりに有意な差があるかどうかについて一元配置分散分析を行ったところ、有意な差（p＜.001）が見られた。多重比較（Tekey法）の結果、夫婦二人暮らしと子ども夫婦と同居、夫婦二人暮らしと子どもと同居（孫がいる場合）、子ども夫婦と同居と子どもと同居（孫がいない場合）の間に有意な差が見られた。夫婦二人暮らしの祖母と、孫のいない子どもと同居している祖母は、孫との関わりが少ないという結果となった。

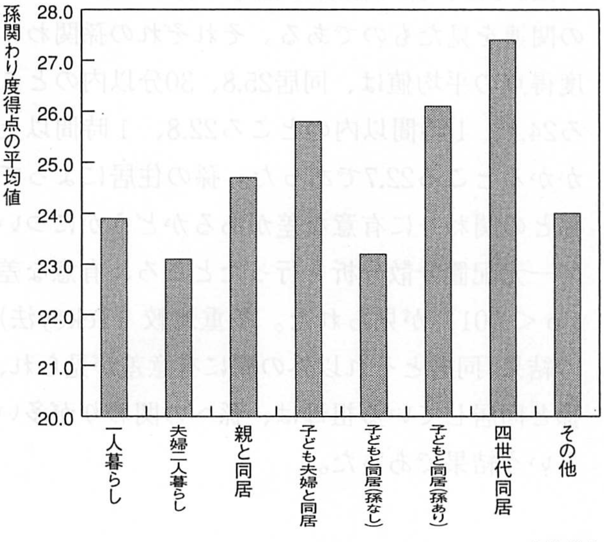

図9-2　祖母の家族構成と孫との関わりとの関連

図9-3は、孫の年齢と祖母の孫への関わりとの関連を見たものである。それぞれの孫関わり度得点の平均値は、0才19.4、1才22.9、2才24.3、3才24.6、4才24.4、5才24.8、6才23.5であった。孫の年齢によって孫との関わりに有意な差があるかどうかについて一元配置分散分析を行ったところ、0才と2才以上の年齢との間に有意な差（p＜.05）が見られた。これは、質問の内容が乳児にはあてはまりにくかったことが考えられ、実際の関わりを反映しているかどうかは疑問が残る結果である。

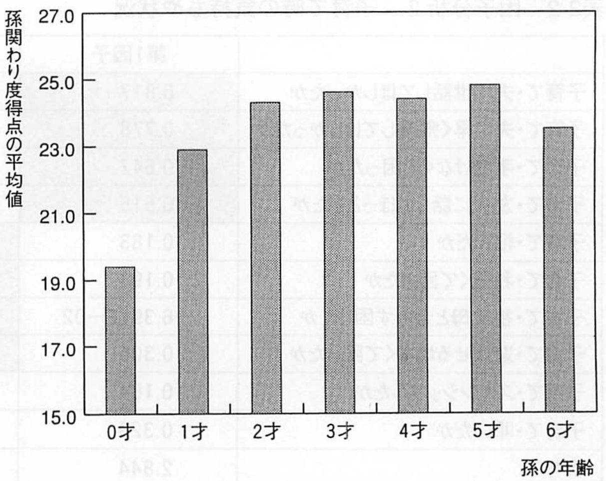

図9-3　孫の年齢と孫との関わりとの関連

図9-4は、孫が息子の子どもか娘の子どもかによる違いと祖母の孫への関わりとの関連を見たものである。孫関わり度得点の平均値は、息子の子どもが23.5、娘の子どもが24.3であった。有意な差があるかどうかについて一元配置分散分析を行ったが、有意差は見られなかった。

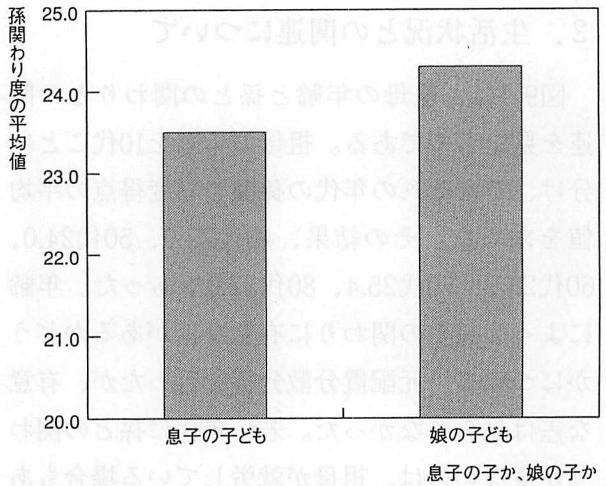

図9-4　息子の子どもか娘の子どもかによる違いと孫との関わりとの関連

図9-5は、孫の住居と祖母の孫への関わりとの関連を見たものである。それぞれの孫関わり度得点の平均値は、同居25.8、30分以内のところ24.1、１時間以内のところ22.8、１時間以上かかるところ22.7であった。孫の住居によって孫との関わりに有意な差があるかどうかについて一元配置分散分析を行ったところ、有意な差（p＜.001）が見られた。多重比較（Tekey法）の結果、同居とそれ以外の間に有意差が見られ、孫と同居している祖母は、孫への関わりが多いという結果であった。

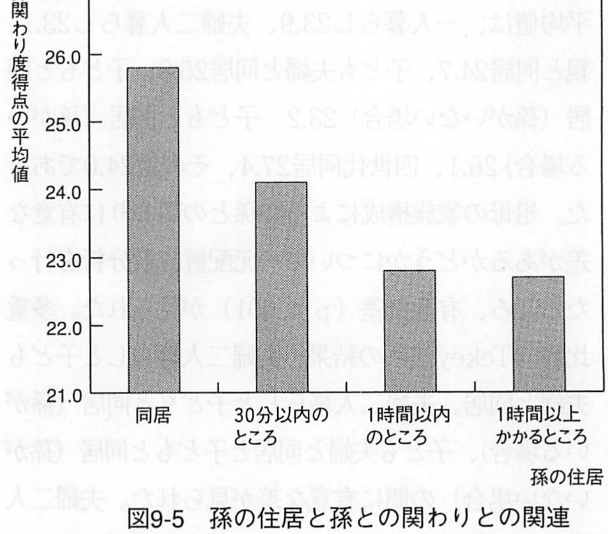

図9-5　孫の住居と孫との関わりとの関連

図9-6は、孫に会う頻度と祖母の孫への関わりとの関連を見たものである。それぞれの孫関わり度得点の平均値は、ほぼ毎日25.5、週に2・3回23.6、月に2・3回23.2、1・2ヵ月に1回21.5、年に2・3回22.8、その他26.0であった。孫に会う頻度によって孫との関わりに有意な差があるかどうかについて一元配置分散分析を行ったところ、有意な差（p<.001）が見られた。その他が1例のみであったため除外して多重比較（Tekey法）を行った結果、ほぼ毎日と週2・3回、ほぼ毎日と月2・3回、ほぼ毎日と1・2ヵ月に1回の間に有意差が見られ、ほぼ毎日孫に会っている祖母は、孫との関わりが多いという結果となった。

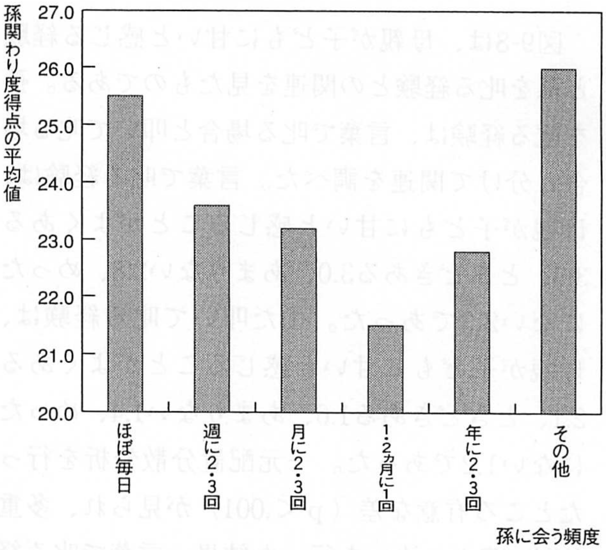

図9-6　孫に会う頻度と孫への関わりとの関連

3．母親の養育態度との関連について

図9-7は母親の養育態度に戸惑いを感じる経験と孫を叱る経験との関連を見たものである。孫を叱る経験は、言葉で叱る場合と叩いて叱る場合と分けて関連を調べた。言葉で叱る経験は、母親の養育態度に戸惑いを感じることがよくある3.4、ときどきある3.0、あまりない2.8、めったにない2.4であった。また叩いて叱る経験は、母親の養育態度に戸惑いを感じることがよくある1.8、ときどきある1.7、あまりない1.4、めったにない1.3であった。一元配置分散分析を行ったところ有意な差（p<.001）が見られ、多重比較（Tekey法）を行った結果、言葉で叱る場合はめったにないとそれ以外の間に、叩いて叱る場合はときどきあるとあまりない、ときどきあるとめったにないの間に有意な差が見られた。母親の養育態度に戸惑いを感じる経験が多いと、孫を言葉で叱る経験、叩いて叱る経験共に多いという結果となった。

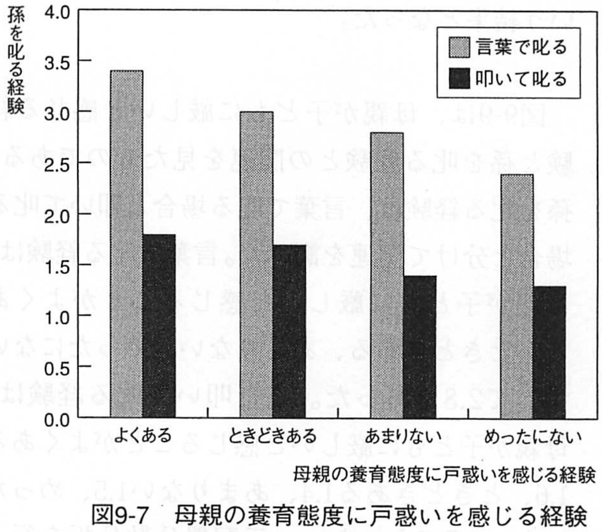

図9-7　母親の養育態度に戸惑いを感じる経験と孫を叱る経験との関連

図9-8は、母親が子どもに甘いと感じる経験と孫を叱る経験との関連を見たものである。孫を叱る経験は、言葉で叱る場合と叩いて叱る場合と分けて関連を調べた。言葉で叱る経験は、母親が子どもに甘いと感じることがよくある3.5、ときどきある3.0、あまりない2.8、めったにない2.3であった。また叩いて叱る経験は、母親が子どもに甘いと感じることがよくある2.1、ときどきある1.6、あまりない1.4、めったにない1.2であった。一元配置分散分析を行ったところ有意な差（p＜.001）が見られ、多重比較（Tekey法）を行った結果、言葉で叱る経験はめったにないとそれ以外の間に、叩いて叱る経験はよくあるとそれ以外の間、ときどきあるとめったにないの間に有意な差が見られた。母親が子どもに甘いと感じる経験が多いと、孫を言葉で叱る経験、叩いて叱る経験共に多いという結果となった。

図9-9は、母親が子どもに厳しいと感じる経験と孫を叱る経験との関連を見たものである。孫を叱る経験は、言葉で叱る場合と叩いて叱る場合と分けて関連を調べた。言葉で叱る経験は、母親が子どもに厳しいと感じることがよくある、ときどきある、あまりない、めったにないすべて2.8であった。また叩いて叱る経験は、母親が子どもに厳しいと感じることがよくある1.6、ときどきある1.4、あまりない1.5、めったにない1.5であった。一元配置分散分析を行ったところ有意な差は見られなかった。母親が子どもに厳しいと感じる経験と孫を叱る経験には関連は見られないという結果であった。

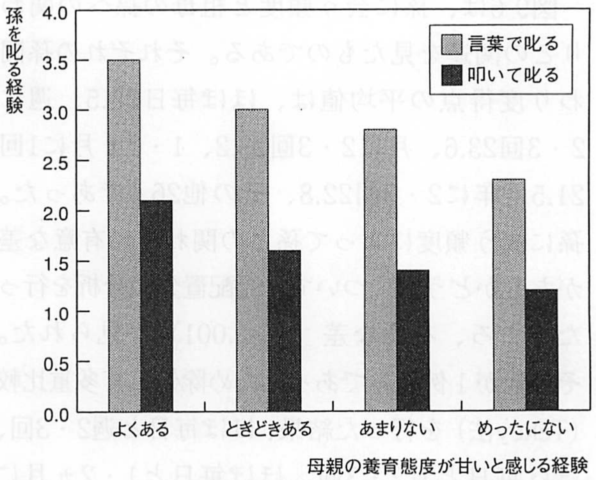

図9-8　母親の養育態度が甘いと感じる経験と孫を叱る経験との関連

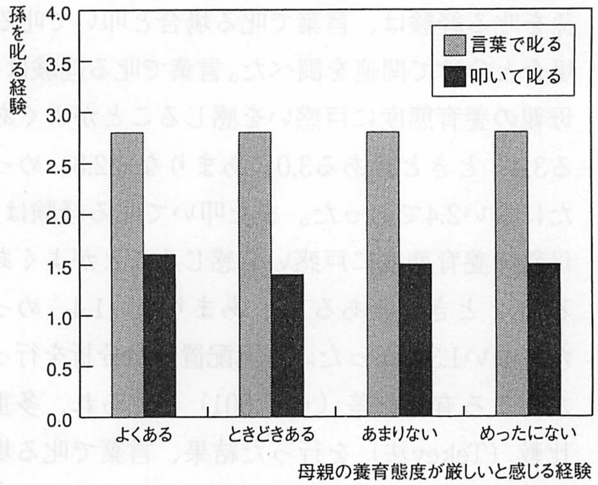

図9-9　母親の養育態度が厳しいと感じる経験と孫を叱る経験との関連

4．祖母の子育て時との関連について

図9-10は、子育て時のスキンシップの経験と孫とのスキンシップの経験との関連を見たものである。孫とのスキンシップの経験は、子育て時のスキンシップがよくあった3.9、ときどきあった3.6、あまりなかった3.8、めったになかった3.0であった。一元配置分散分析を行ったところ有意な差（p＜.001）が見られ、多重比較（Tekey法）を行った結果、よくあったとときどきあった、よくあったとめったになかった、あまりなかったとめったになかったの間に有意差が見られた。子育て時にスキンシップの経験が多い祖母は、孫とのスキンシップも多いという結果となった。

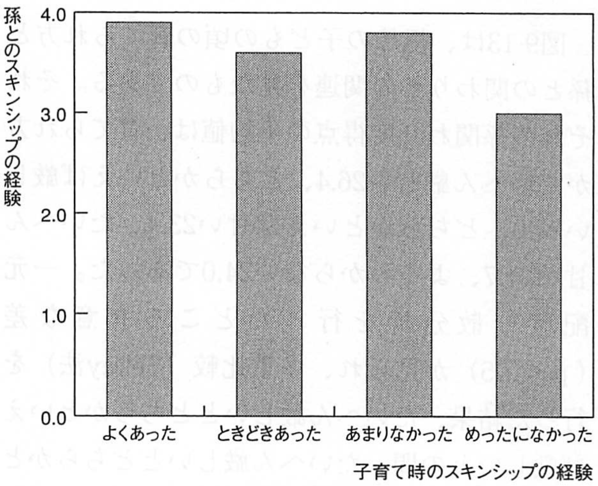

図9-10　子育て時のスキンシップと孫とのスキンシップとの関連

図9-11は、子育て時に子どもを叩いた経験と孫を叩く経験との関連を見たものである。孫を叩く経験は、子育て時に子どもを叩いた経験がよくあった2.1、ときどきあった1.5、あまりなかった1.5、めったになかった1.1であった。一元配置分散分析を行ったところ有意な差（p＜.001）が見られ、多重比較（Tekey法）を行った結果、よくあったとそれ以外の間、ときどきあったとめったになかったの間に有意な差が見られた。子育て時に子どもを叩いた経験が多い祖母は、孫を叩く経験も多いという結果となった。

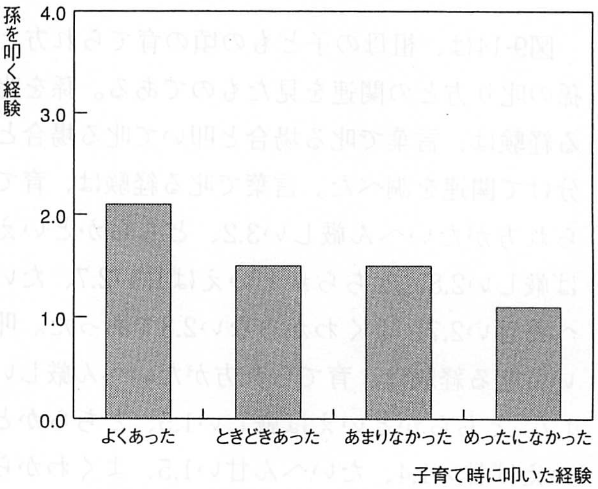

図9-11　子育て時に子どもを叩いた経験と孫を叩く経験との関連

図9-12は、子育て時に子どもについて悩んだ経験と孫について悩む経験との関連を見たものである。孫について悩む経験は、子育て時に悩んだ経験がよくある2.8、ときどきある2.5、あまりない2.3、めったにない2.1であった。一元配置分散分析を行ったところ有意な差（p＜.05）が見られ、多重比較（Tekey法）を行った結果、よくあったとあまりなかった、よくあったとめったになかったの間に有意な差が見られた。子育て時に子どもについて悩んだ経験が多い祖母は、孫について悩むことが多いという結果となった。

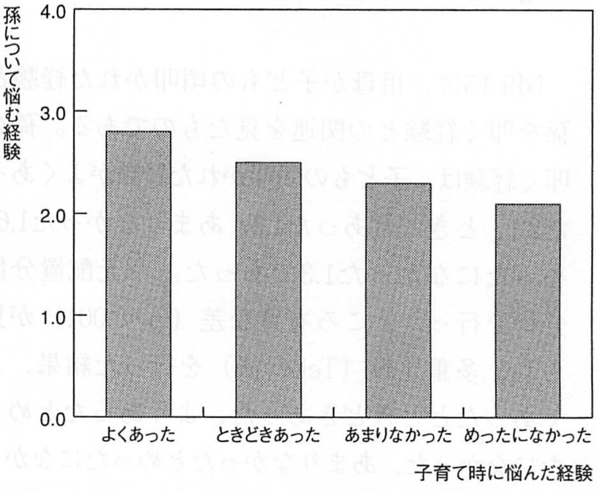

図9-12　子育て時に悩んだ経験と孫について悩む経験との関連

5．祖母が育った環境との関連について

図9-13は、祖母の子どもの頃の育てられ方と孫との関わりとの関連を見たものである。それぞれの孫関わり度得点の平均値は、育てられ方がたいへん厳しい26.4、どちらかといえば厳しい24.0、どちらかといえば甘い23.4、たいへん甘い24.7、よくわからない24.0であった。一元配置分散分析を行ったところ有意な差（p＜.05）が見られ、多重比較（Tekey法）を行った結果、たいへん厳しいとどちらかといえば厳しいとの間、たいへん厳しいとどちらかといえば甘いの間に有意な差が見られた。たいへん厳しく育てられたと感じている祖母が、孫との関わりが大きいという結果となった。

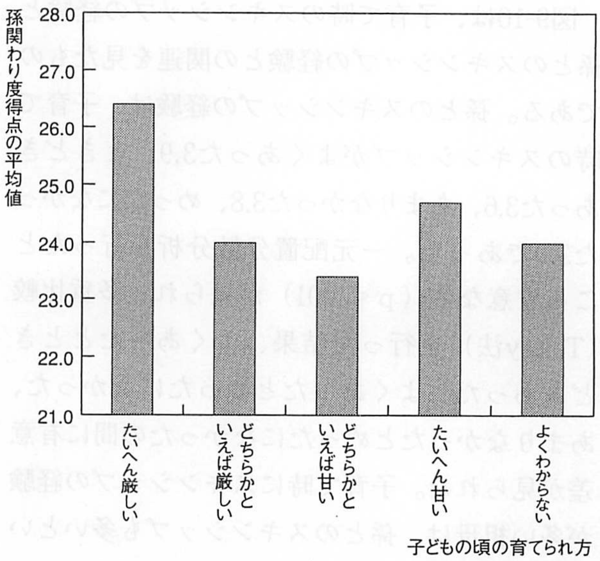

図9-13　育てられ方と孫との関わりとの関連

図9-14は、祖母の子どもの頃の育てられ方と孫の叱り方との関連を見たものである。孫を叱る経験は、言葉で叱る場合と叩いて叱る場合と分けて関連を調べた。言葉で叱る経験は、育てられ方がたいへん厳しい3.2、どちらかといえば厳しい2.8、どちらかといえば甘い2.7、たいへん甘い2.7、よくわからない2.8であった。叩いて叱る経験は、育てられ方がたいへん厳しい1.7、どちらかといえば厳しい1.5、どちらかといえば甘い1.4、たいへん甘い1.5、よくわからない1.4であった。一元配置分散分析を行ったが有意な差は見られず、祖母の育てられ方と孫の叱り方には有意な関連性は見られなかった。

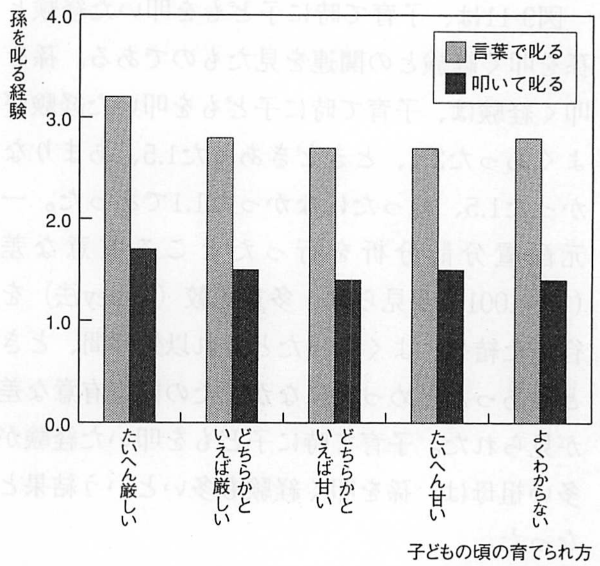

図9-14　育てられ方と孫を叱る経験との関連

図9-15は、祖母が子どもの頃叩かれた経験と孫を叩く経験との関連を見たものである。孫を叩く経験は、子どもの頃叩かれた経験がよくあった2.1、ときどきあった1.5、あまりなかった1.6、めったになかった1.3であった。一元配置分散分析を行ったところ有意な差（p＜.001）が見られ、多重比較（Tekey法）を行った結果、よくあったとときどきあった、よくあったとめったになかった、あまりなかったとめったになかったの間に有意な差が見られた。子どもの頃に叩かれた経験がよくあった祖母は、孫を叩く経験も多いという結果となった。

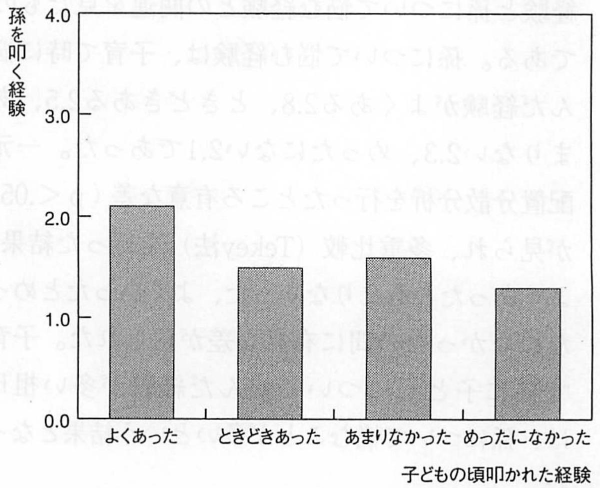

図9-15　叩かれた経験と孫を叩く経験の関連

生活状況との関連では、同居していたり、近くに住んでいたりする祖母、孫と会う頻度が高い祖母ほど孫への関わりが大きかった。また、有意差は見られなかったものの、年齢の高い祖母や四世代同居の祖母が孫への関わりが大きく、家族の中で祖母が大きな役割を担って生活していることも明らかとなった。

息子の子どもか娘の子どもかによって、関わりに差があるのではないかと予想したが、ほとんど差はなかった。実母か義母かという違いより、住んでいる距離や会う頻度によって孫への関わりが異なるという結果であった。

また、母親の養育態度と祖母の叱り方との関連を見たところ、母親の養育態度に戸惑いを感じる祖母、子どもに甘いと感じる祖母ほど、孫を言葉で叱る経験、叩いて叱る経験共に多かった。一方、母親の養育態度が厳しいと感じる経験と孫を叱る経験には全く関連は見られなかった。このことから、母親が「しっかりしていない」と感じる場合、祖母は孫に対するしつけをする役割を担うのではないかと考えられる。逆に、母親が「しっかりしている」と感じる場合は、孫を叱る必要がないと考えられ、母親の養育態度によって、祖母の孫への態度が左右されることが伺われた。

祖母の子育て時との関連を見てみると、スキンシップ、叩いた経験、悩んだ経験共に、子育て時によくあった祖母ほど孫に対しても多いという結果であった。子どもから孫の世代になっても、その人によって同じような形の関わりが続くものと考えられる。

祖母が育った環境との関連では、子どもの頃の育てられ方との関連を見たところ、たいへん厳しく育てられたと感じている祖母が、最も孫への関わりが大きかった。しかし、孫を叱る経験との関連では、若干数値は高かったものの、有意な差は見られなかった。

親に叩かれた経験と孫を叩く経験との関連を見たところ、叩かれた祖母は孫を叩く経験も多かった。図示はしなかったが、叩かれた祖母は子育て時に子どもを叩いた経験も多く、叩かれた祖母は、子どもに対しても、孫に対しても叩く経験が多いという結果であった。

第３章　祖母が感じる子育ての違いについて

本調査では、現在の子育てに対する祖母の意識を知るために、「ご自身の子育てと今の子育てを比べて、いちばん違うと感じるところはどんなところですか」という質問項目を作成した。自由に記述する形で回答してもらい、記入された回答を研究会のメンバーで読み合わせの上、分類した。以下がその分類結果と内容である。(表4-1、4-2-1～4-2-6)

書かれた回答について、その内容から「親としての態度」「子どもへの態度」「食生活」「豊かさや利便性」「父親の子育て参加」「社会や環境の状況」「その他」「違いはない」という８つに分類をした。さらにそれぞれの内容について、自分の子育て時の方がよかったというものを「昔の方が良い」、現在の子育ての方がいいというものを「今の方が良い」、一つの事柄について昔と現在と両方に良い点を記入しているものを「昔と今と両方良いところがある」、違いがある事柄のみを記入し、昔と現在とどちらが良いとも記入がないものを「どちらとも明記なし」と分類した。(表4-1)

その結果、記入数は302、述べ内容数は322であった。「昔の方が良い」と記入した内容が159、「今の方が良い」と記入した内容が94、「昔と今と両方良いところがある」が11、「どちらとも明記なし」が68であった。祖母は、自分の子育て時と現在の子育てを比べると、自分の子育て時を肯定的に感じており、現在の子育てを厳しく見ていることが伺える。

表4-1　祖母が感じる子育ての違い

	昔の方が良い	今の方が良い	昔と今と両方良いところがある	どちらとも明記なし	合計
親としての態度	42	17	4	13	76
子どもへの態度	29	6	0	5	40
食生活	11	2	1	2	16
豊かさや利便性	37	26	3	16	82
父親の子育て参加	0	24	0	2	26
社会や環境の状況	36	16	2	10	64
その他	4	3	1	7	15
違いはない	0	0	0	13	13
合計	159	94	11	68	332

それぞれの内容について、「昔の方が良い」「今の方が良い」を比較すると、まず「親としての態度」では、「昔の方が良い」という内容が最も多く、今の親たちは子どもに本気で向き合わない、自分を優先するなどの厳しい意見が多かった。(表4-2-1)親としての責任を自覚していない、親自身がしっかり育っていないなど親になる前提を問うものもあり、「親であること」「親になること」に対して、今の親に不満が多いことが感じられた。また、母親が就労することについて批判的なものもあった。

「今の方が良い」という内容では、「子育てを楽しんでいていい」など自分の子育て時にできなかったことができていることをうらやましいと感じる記入が多かった。

表4-2-1　親としての態度

昔の方が良い	今の方が良い
・子どもに対して本気で向き合うことをしない ・育児誌に頼って、臨機応変に対処できない ・親としての責任の重さを自覚していない ・病気について神経質すぎる ・子どもより自分のことを優先する	・子育てを楽しんでいる ・スキンシップを大事にしている ・子どもの才能を伸ばそうとするのに感心する ・昔よりしっかりしている

「子どもへの態度」では（表4-2-2)、「昔の方が良い」内容として、子どもに対して甘いという記入が非常に多かった。しつけをしない、きちんと叱ることをしないことについて批判的であった。また、子どもに構い過ぎる、世話をし過ぎるという記入もあった。「今の方が良い」内容では、叱り方に関するものが多く、手をあげない、よく言い聞かせて反省させているなどがあった。

表4-2-2 子どもへの態度

昔の方が良い	今の方が良い
・躾について非常に甘い ・子どもに気を使い、お金や物で簡単にかたづけようとする ・あれもこれもダメと言い、子どもに構い過ぎる ・礼儀作法を教えない	・子どもによく言い聞かせている ・よく見て褒めているし、自分の感情で叱っている ・手をあげない

「食生活」では（表4-2-3)、「昔の方が良い」内容としては、手作りの食事が減っていること、外食や出来合いの利用が多いことを挙げるものがほとんどであった。逆に「今の方が良い」内容には、出来合いの離乳食があって良いというものが1例あった。

表4-2-3 食生活

昔の方が良い	今の方が良い
・インスタント食品や出来合いの食品、弁当が多い ・食事が欧米化して日本食が減っている ・外食が多い ・子どもの好き嫌いを許している	・よく手をかけている ・離乳食など出来合いのものがある

「豊かさや利便性」では（表4-2-4)、「昔の方が良い」と「今の方が良い」と意見が別れる結果となった。特に紙おむつについて、肯定的な意見と否定的な意見が別れている。「昔の方が良い」内容では、おもちゃや衣類など子どもにものを与え過ぎる、ものが多すぎて大事にしないという意見が最も多かった。また、紙おむつについては手をかけなくなった、もったいないという記入であった。一方「今の方が良い」では、紙おむつについて、楽になり、それが子育て全体にいい影響を与えているという内容が多かった。子育てに関する情報や用品が多いことが良いというものも多かった。

表4-2-4 豊かさや利便性

昔の方が良い	今の方が良い
・おもちゃや衣類を与え過ぎる ・紙おむつになり、手をかけなくなったし、もったいない ・ものがありすぎて、贅沢になり、ものを大事にしない	・情報が多い ・紙おむつになり、楽になって、時間的、精神的余裕が生まれている ・ベビー用品が充実している ・気軽に出かけることができる

「父親の子育て参加」では（表4-2-5)、「昔の方が良い」は1例もなく、唯一「今の方が良い」が多い項目となった。今の子育ては積極的に父親が協力し、それが母親の大きな支えになっている、夫婦で一緒に子育てをしているなどの記入が多く、祖母の子育て時には父親の協力が得られず、一人で子育てをしていたことが伺えた。

表4-2-5 父親の子育て参加

昔の方が良い	今の方が良い
	・父親の協力があり、母親の心労が少ない ・夫婦で子育てをしている ・ファミリーで行動しているのがうらやましい

「社会や環境の状況」では（表4-2-6)、「昔の方が良い」内容として、自然が減り、子どもが遊べる場所が少なくなったことを挙げるものが多かった。子ども同士で遊ばなくなり、テレビやビデオ、ゲームが多くなったことについて批判的な内容も多かった。また、近所付き合いなど、大人同士の関わりが減っていることを指摘するものもあった。「今の方が良い」では、保育所や託児所など子どもを預かってくれる施設が充実しているという内容が多かった。また、友人など子育てについて話せる対象があり、情報が得られたり、意見の交換ができることを挙げるものもあった。

表4-2-6　社会や環境の状況

昔の方が良い	今の方が良い
・自然がなくなり、外に遊ぶ場所がなくなった ・子ども同士で遊ぶことが少ない ・近所付き合いがなくなった ・ぶっそうになり、危険が多い	・保育所など子どもを預ける施設が充実している ・友人との意見交換をよくしている ・情報が多く、知識が豊富 ・生活のレベルが上がっている

「その他」では、「昔の方が良い」内容では、子どもの数が減り兄弟がいなくなった、子どもについてかわいげがなくなったなどの記入があった。また「今の方がよい」では、子どもがしっかりしているなどの内容があった。

全体では、「昔の方が良い」が「今の方が良い」を大きく上回り、祖母は現在の子育てについて厳しい見方をしていると考えられる。中でも、親としての在り方を問うものが多く、子どもに対するしつけについての不満が多かった。また、紙おむつや食事など「楽をすること」を批判的に見る人が多く、自分の子育て時の大変さや努力を評価し、その大変さが子育てに良かったと感じている人が多いと思われた。さらに、環境の変化により、子どもが遊べる場所が減り、子どもの世界が変わったことを憂れう内容が多く、今後を不安に感じる人もあった。

一方現在の子育てを良いと感じる内容では、父親が積極的に参加していることについて非常に肯定的であり、夫婦が一緒に子育てすることに賛同する意見が多かった。また、紙おむつなど「楽になったこと」をプラス面と捉え、子育てのしんどさが減り、楽しめることを良いと感じる人も多かった。これらは、祖母が一人で子育ての苦労を抱え、しんどさを感じていたことと比べて、現在の子育ては周囲のサポートが増え、精神的な負担が少なくなったと感じられるのだろうと思われる。

親個人については厳しい意見が多かったが、親へのサポートについては、夫や公的機関などを合わせて、増えてきたことを評価する意見が多いという結果であった。

おわりに

本調査では、これまでに実施した母親、父親を対象とした調査の結果を受けて、祖母の子育てへの関わりや祖母の子育てへの感じ方を把握することを目的としました。現代の子育ての環境をさらに詳しく捉え、育児支援の在り方を考える資料として生かしたいと考えております。

本調査の結果から、孫に関わっている祖母が多く、祖母が子育てに大きな役割を担っていることが伺えました。それは祖母自身の張り合いになる面もあり、また悩みとなる面も見受けられました。母親の養育態度をどう感じるかが祖母の役割を作っていることも伺われました。また、叩くという行為については、自分が叩かれた人、子育て時に叩いた人が多く孫を叩いており、世代を越えて同じパターンが繰り返されていると考えられます。

さらに、現在の子育てについて厳しい見方をしている祖母が多く、特に親の在り方について批判的な意見が多くありました。その一方、父親が子育てに参加していることなど楽しく子育てができることを肯定的に感じる祖母も多く、祖母の子育て時との状況の違いが大きいことが感じられました。

本調査の結果やこれまでの調査をもとに、さらに子育ての現状を把握し、考察を深め、社会における育児支援の研究を続けていきたいと思っております。

今後共、御支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

甲南大学人間科学研究所学術フロンティア子育て研究会代表
甲南大学名誉教授　松　尾　恒　子

祖母の方及びご家族の方へ

子育て環境と子どもに対する意識調査３

（無記名）

調査のお願い　**祖母版**

こんな調査です

皆様方にはお元気でお過ごしでしょうか。

さて、甲南大学では、一昨年度より文部科学省学術フロンティア共同研究プロジェクトの一環として子育て研究会を持ち、子どもの育児環境について調査、研究をすすめています。これまでには主にお母さんとお父さんに調査をお願いし、ご協力いただきましたが、今回は、主に**祖母の方**のお孫さんに対する考えを知りたいと考えています。今日の子ども達とご家族の置かれている環境や子どもに対する考えを知り、育児をどのように支援していけるのかを考えるための資料として生かしたいと思っています。

ご多忙中のこととは存じますが、よろしくご協力下さいますようお願いいたします。

文部科学省学術フロンティア共同研究プロジェクト。。。。。

このプロジェクトは、現代人のメンタリティを研究対象とし、特にその危機の側面に焦点をあて、臨床心理学および現代思想の立場から総合的な研究を行うものです。

子育て研究会。。。。。

甲南大学カウンセリングセンターの教員およびカウンセラーで構成される研究会です。

お孫さんが複数いる方は

お孫さんのうち、就学前のお孫さんを一人選んで、そのお孫さんについてお答え下さい。

研究以外の目的には使用しません

この調査に記入されました事柄は、すべて統計的に処理し、研究以外の目的に使用することはありません。また、無記名ですので、お答えいただいた方やご家族の方にご迷惑をおかけすることは一切ありません。どうぞありのままをお答え下さい。

また、調査の結果をお知りになりたい方は下記までご連絡下さい。調査結果がまとまり次第、お送りいたします。

研究者代表
甲南大学文学部人間科学科教授　　松尾　恒子

この調査についてのお問い合わせは、下記にご連絡下さい。
甲南大学文学部人間科学科（〒658-8501　神戸市東灘区岡本８－９－１）
松尾研究室　　TEL.　０７８－４３５－２３７２
文学部心理共同研究室　TEL　FAX.　０７８－４３５－２６８２

これからおたずねすることについて、あてはまる選択肢に○をつけて下さい
(　　)及び＿＿＿には、具体的に記入して下さい

あなたの年令　　　　＿＿＿＿＿才

お孫さんとの続柄　　①祖母　　②祖父　　③その他（　　　　　　）

現在同居している人についてその構成を書いて下さい（例　本人、夫、息子夫婦、孫）
（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

I　お孫さんについてお聞きします

（普段関わりのある、就学前のお孫さんを１人選んでお答え下さい）

１．お孫さんの数は全部で　＿＿＿＿＿人

２．今回お答えいただくお孫さんは
①＿＿＿＿才
②　男・女
③　息子の子ども・娘の子ども
④保育所に通っている・幼稚園に通っている

３．お孫さんが住んでいるところは
①同居している
②30分以内で行けるところに住んでいる
③１時間以内で行けるところに住んでいる
④その他（　　　　　　　　　　）

４．お孫さんとどれくらいの頻度で会いますか
①ほぼ毎日　　②週に２、３回　　③月に２、３回
④年に２、３回　　⑤その他（　　　　　　　）

５．お孫さんと会うのはどのような時ですか
（　　　　　　　　　　　　　　　　　）

６．お孫さんの誕生時、どのような手助けや関わりをしましたか（複数回答可）
①出産前後に回答者の自宅に滞在した（里帰りなど）
②病院に付き添った　　③出産後家へ手伝いに行った
④特になかった　　⑤その他（　　　　　　　）

7．あなたの気持ちや状況にいちばん近いものはどれですか

(1)はじめてお孫さんを抱いた時どんな気持ちになりましたか

①たいへん うれしい　②まあまあ うれしい　③あまり うれしくない　④ぜんぜん うれしくない

(2)お孫さんをだっこしたり、スキンシップしたりすることがありますか

①よくある　②ときどきある　③あまりない　④めったにない

(3)お孫さんがだだをこねたり、我（が）が強いことで困ったり悩んだりしたことがありますか

①よくある　②ときどきある　③あまりない　④めったにない

(4)お孫さんを言葉で叱ることがありますか

①よくある　②ときどきある　③あまりない　④めったにない

(5)お孫さんを叩いて叱ることがありますか

①よくある　②ときどきある　③あまりない　④めったにない

(6)お孫さんがいることが張り合いになると思うことがありますか

①よくある　②ときどきある　③あまりない　④めったにない

(7)お孫さんがいることがわずらわしいと思うことがありますか

①よくある　②ときどきある　③あまりない　④めったにない

(8)お孫さんについて話し合える人が欲しいと思うことがありますか

①よくある　②ときどきある　③あまりない　④めったにない

(9)娘さんやお嫁さんの子育てに戸惑いを感じることがありますか

①よくある　②ときどきある　③あまりない　④めったにない

(10)どんなところに戸惑いを感じますか（複数回答可）

①かわいがり方　②叱り方　③育児用品　④その他
（　　　　　　　　）

(11)娘さんやお嫁さんが子どもに甘いと感じることがありますか

①よくある　②ときどきある　③あまりない　④めったにない

(12)どんなところを甘いと感じますか（複数回答可）

①食べ物について（好き嫌いなど）　②食事のマナーについて

③おもちゃについて　④礼儀について

⑤生活のけじめについて（就寝時間など）　⑥その他（　　　　　　　　）

(13)娘さんやお嫁さんがしつけに厳しいと感じることがありますか

①よくある　②ときどきある　③あまりない　④めったにない

(14)どんなところを厳しいと感じますか（複数回答可）

①食べ物について（好き嫌いなど）　②食事のマナーについて

③おもちゃについて　④礼儀について

⑤生活のけじめについて（就寝時間など）　⑥その他（　　　　　　　　）

II　子育ての頃についてお聞きします

1．子育てをしていた頃の家族構成は（例　父、母、子ども、祖母）

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

2．子育てをしていた頃のあなたの職業は

①専業主婦　②常勤　③自営（家業の手伝いも含む）

④パート・アルバイト（非常勤、嘱託も含む）　⑤その他（　　　　　）

3．お子さんの数は　＿＿＿＿＿人

4．出産したのはどのような施設でしたか（複数回答可）

①総合病院　②産婦人科病院　③助産院

④自宅　⑤その他（　　　　　　）

5．出産の形態は（複数回答可）

①普通分娩　②無痛分娩　③吸引、鉗子分娩

④帝王切開　⑤その他（　　　　　　）

6．出産時に夫（父親）の立ち会いがありましたか

①なかった　②あった

7．子育ての頃の気持ちや状況にいちばん近いものはどれですか

(1)子どもがだだをこねたり、我（が）が強いことで困ったり悩んだりしたことがありましたか

①よくあった　②ときどきあった　③あまりなかった　④めったになかった

(2)子どもをだっこしたり、スキンシップしたりすることがありましたか

①よくあった　②ときどきあった　③あまりなかった　④めったになかった

(3)子どもを叩いたことがありましたか

①よくあった　②ときどきあった　③あまりなかった　④めったになかった

(4)子どもが育てにくい子だと感じて悩んだことがありましたか

①よくあった　②ときどきあった　③あまりなかった　④めったになかった

(5)近所に子どもを遊ばせるところがなくて困ったことがありましたか

①よくあった　②ときどきあった　③あまりなかった　④めったになかった

(6)子どもの具合が悪いとき手助けしてもらえる人がいなくて困ったことがありましたか

①よくあった　②ときどきあった　③あまりなかった　④めったになかった

(7)子育てについて友人に話してほっとしたことがありましたか

①よくあった　②ときどきあった　③あまりなかった　④めったになかった

(8)祖父母と子どものしつけの方針が合わなくて困ったことがありましたか

①よくあった　②ときどきあった　③あまりなかった　④めったになかった

(9)夫（父親）にもっと早く帰宅して欲しいと思ったことがありましたか

①よくあった　②ときどきあった　③あまりなかった　④めったになかった

(10)夫（父親）にもっと子どもの世話をして欲しいと思ったことがありましたか

①よくあった　②ときどきあった　③あまりなかった　④めったになかった

Ⅲ　あなたご自身についてお聞きします

1．子どもの頃の家族構成は（例　父、母、子ども）
（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

2．子どもの頃主に世話をしてくれた人は（複数回答可）
①父　　②母　　③祖父　　④祖母　　⑤その他（　　　　　　）

3．あなたはどのように育てられましたか
①たいへんきびしい　　②どちらかといえばきびしい　　③どちらかといえばあまい　　④たいへんあまい　　⑤よくわからない

4．子どもの頃、親に叩かれたことがありましたか
①よくあった　　②ときどきあった　　③あまりなかった　　④めったになかった

5．ご自身の出産より前に自分より年少者の世話をしたことがありましたか
①あった　　②なかった　　③わからない

6．子どものころ親と離れて暮らしたことがありましたか
①あった　　②なかった　　③わからない

7．ご自身の子育てと今の子育てを比べて、いちばん違うと感じるところはどんなところですか

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

お差し支えなければ、子育てやお孫さんについて感じたり考えたりされていることを自由にご記入下さい

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

お忙しい中、ご協力いただきましてありがとうございました

学術フロンティア子育て研究会メンバー 一覧

代表　松尾　恒子（甲南大学名誉教授）

青柳　寛之（甲子園大学講師・甲南大学学生相談室）

高石　恭子（甲南大学文学部教授・学生相談室）

常井千恵子（甲南大学心理臨床カウンセリングルーム・学生相談室）

友久　茂子（甲南大学学生相談室）

福井　裕子（甲南大学学生相談室）

— 以上・学術フロンティア研究員

大島　博子（新川医院）

甲斐　暁子（甲南大学人文科学研究科）

拜郷　奈美（甲南大学人文科学研究科）

坂東万里江（甲南大学人文科学研究科）